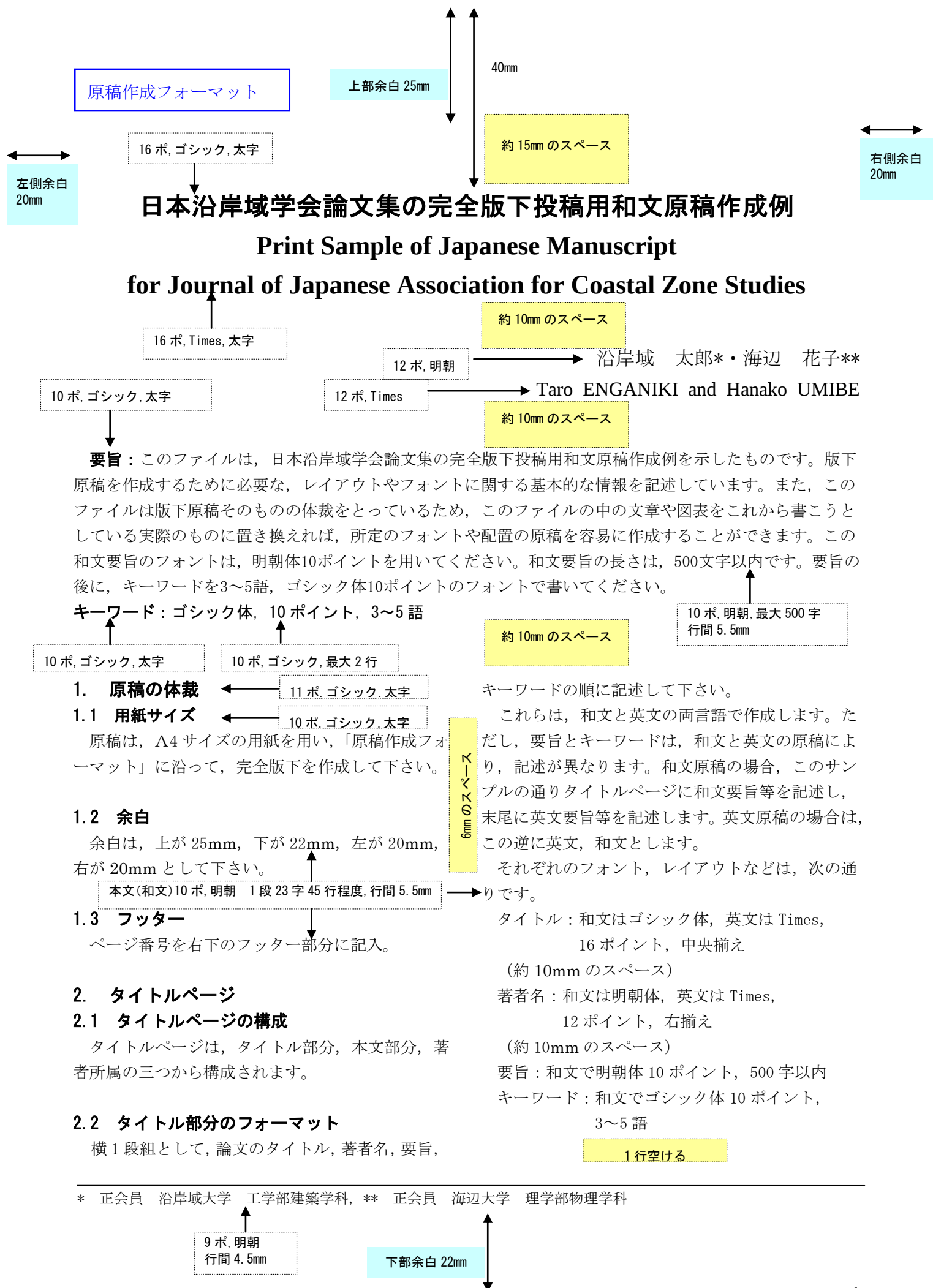




## 2.3 本文部分のフォーマット

本文とキーワードの間に約10mmのスペースを空けて下さい。その他のフォーマットは、3章の記述に従って下さい。

1行空ける

## 2.4 著者所属のフォーマット

横1段組として、会員種別、所属（大学・学部・学科、会社名・部・課）を、明朝体9ポイント、行間4.5mmで記述して下さい。また、著者と所属先との対応がわかるように、著者と所属先に\*、\*\*などの記号を付けて下さい。

1行空ける

## 2.5 英文原稿の場合

英文の要旨とキーワードのフォントやサイズなどは、末尾の英文要旨を参照して下さい。

1行空ける

## 3. 一般ページ

### 3.1 段組数・文字数・行数

横2段に組み、1段23字45行程度、行間5.5mmで作成して下さい。また、英文原稿の場合も、横2段に組み、1段50行程度で作成して下さい。

1行空ける

### 3.2 フォント

本文は、明朝体10ポイントとし、文頭は1字下げして下さい。また、英文原稿の場合は、Times10ポイントとし、文頭を2字下げして下さい。

1行空ける

### 3.3 見出し（見出しが1行以上に長くなるときは、この例のようにインデントし折り返す）

#### 3.3.1 見出しのレベル

見出しのレベルは、原則として章、節、項の3段階までとします。

#### 3.3.2 見出しのフォント

見出しは、ゴシック体とし、章を11ポイント、節と項を10.5ポイントの太字とします。

#### 3.3.3 スペースなど

本文と章・節の間には、1行程度のスペースを空けて下さい。本文と項の間には、特にスペースを空けません。

また、ページや段が切り替わる部分は、章などの見出しが最上部に来るように調整して下さい。

1行空ける

## 3.4 図・表・写真

図表等は、原則として、それらを最初に引用する文章と同じページに置くこととします。

表1 表のキャプションは、表の上に置く。このように長いときは、インデントして折り返す。

| 番号 | 県名  | 件数(数) |
|----|-----|-------|
| 1  | 北海道 | 100   |
| 2  | 東京  | 200   |
| 3  | 沖縄  | 300   |

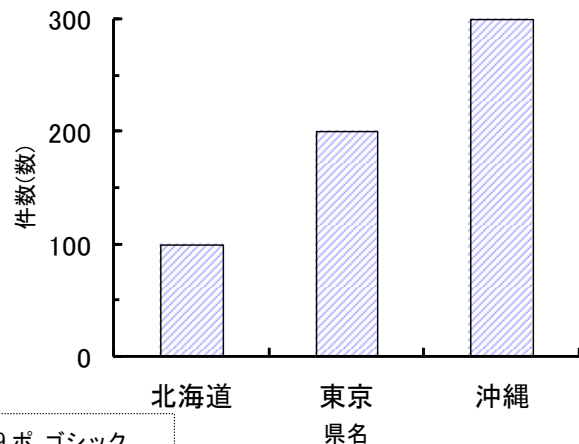


図1 図のキャプションは、図の下に置く。

1行空ける

図表等のキャプションは、上の表1及び図1のようにして下さい。図表等は、それぞれのページの上部または下部に原則として集めてレイアウトして下さい。本文中の表1、図1等の記述は、明朝体10ポイントとして下さい。

図表等の幅は、「ページ幅いっぱい」か「1段の幅いっぱい」のいずれかとします。図表等と文章との間には、1行程度のスペースを空けて区別を明確にします。図表等は、十分判読できるよう、線の太さ、文字の寸法等に注意して下さい。

## 3.5 数式

数式は、

$$y = a \cdot x + b \dots\dots\dots (1)$$

のように記述し、式番号はかっこ書きで右詰めにします。数式と式番号の間のリーダー（点線）はなくてもかまいません。

## 3.6 引用・参考文献

引用・参考文献は、出現順に番号を振り、その引用・参考箇所でこのように ①上付き右括弧付き数字で指示し、原稿の末尾にまとめて記載します。

記載は、著者名、論文名、雑誌名（書名）、巻号、ページ、発行年月日の順にして下さい。英文雑誌の場合は姓、イニシアルとします。著者数が多い場合

は第一著者のみ書き、後を“ほか”，“et al.”として省略できます。英文雑誌の場合，論文の表題は第1字のみ大文字，その他は，固有名詞以外はすべて小文字とします。単行本の場合は，著者名，書名，ページ，発行所，発行年とします。英文の単行本の場合は，書名の頭文字は各単語とも大文字とします。詳細については，記入例に従って下さい。

#### 4. 著者紹介

著者（会員種別），改行して論文掲載時の所属機関名とその住所（問合せ先），生年月日，最終卒業校と卒業年月，主な研究・職歴，所属学協会，学位・資格とその取得年，e-mail address等を，1人当たり本文8行分程度で記載し，顔写真（縦30mm×横24mm）を添付して下さい。著者紹介は，引用・参考文献の後に記入例を参考に記載して下さい。

#### 5. 最終ページ

最終ページの末尾に，タイトル，著者名，要旨，キーワードを，和文原稿の場合は英文で，英文原稿の場合は和文で，横1段組で書きます。フォントの種類やサイズは，各サンプルを参考にして下さい。

このサンプルにあるように，末尾の1段組の前の2段組部分の左右の柱の高さをできるだけ同じにし，10mm以上のスペースを入れて要旨等を配置します。

#### 謝辞

「謝辞」は，「結論」の後に置いて下さい。

#### 付録

「付録」がある場合は，「謝辞」と「引用・参考文献」の間に置くこと。

#### 引用・参考文献

- 1) 沿岸域太郎・海辺花子：日本沿岸域学会論文集の完全版下投稿用和文原稿作成例，沿岸域学会誌，No. 31，pp. 1-4，2018. 6
- 2) Taro Enganiki and Hanako Umibe：Print Sample of Japanese Manuscript for Journal of Coastal Zone Studies，No. 31，pp. 1-4，2018. 6

#### 著者紹介

9 ポ, ゴシック → 沿岸域 太郎（正会員）  
 沿岸域大学工学部建築学科（東京都新宿区富久町 16-5），昭和 32 年生まれ，昭和 54 年 3 月沿岸域大学建築学科卒，同年 4 月沿岸域建築株式会社に入社，昭和 60 年沿岸域大学工学部建築学科勤務，現在同大学教授，工学博士，建築学会会員。  
 E-mail: info@jaczs.com  
 http://www.jaczs.com/

#### 海辺 花子（正会員）

海辺大学理学部物理学科（東京都品川区海辺町 1-1），平成 7 年 3 月海辺大学理学部物理学科卒，平成 15 年 4 月海辺大学理学部物理学科勤務，現在同大学准教授，理学博士，物理学会会員。補足：顔写真は，著者の意向により，掲載しない場合があります。

E-mail: info@jaczs.com

